

2023年惣菜市場規模 前年比4.9%増 10兆9,827億円

(一社)日本惣菜協会「2024年版惣菜白書」6月1日発刊

一般社団法人日本惣菜協会（会長：平井浩一郎）は、中食・惣菜業界の国内市場をまとめた「2024年版惣菜白書」を6月1日に発刊する。今回の調査結果（調査対象期間：2023年1月～12月）から算出した2023年の惣菜市場規模は、前年対比104.9%の10兆9,827億円となり、新型コロナウイルス感染拡大前の2019年比でも106.4%と、2020年に10兆円を割り込んだ市場は完全に回復した。

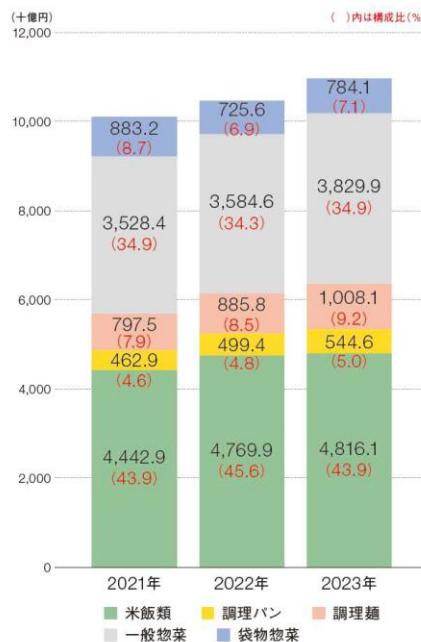
単位：十億円、%

業態	2021年		2022年			2023年		
		構成比		構成比	前年比		構成比	前年比
惣菜専門店	2,747.2	27.2	2,833.4	27.1	103.1	2,942.6	26.8	103.9
百貨店	311.7	3.1	335.6	3.2	107.7	343.1	3.1	102.2
総合スーパー	907.5	9.0	934.5	8.9	103.0	975.4	8.9	104.4
食料品スーパー	2,947.0	29.1	3,081.6	29.4	104.6	3,258.6	29.7	105.7
C V S	3,201.5	31.7	3,280.1	31.3	102.5	3,463.1	31.5	105.6
合計	10,114.9	100.0	10,465.2	100.0	103.5	10,982.7	100.0	104.9

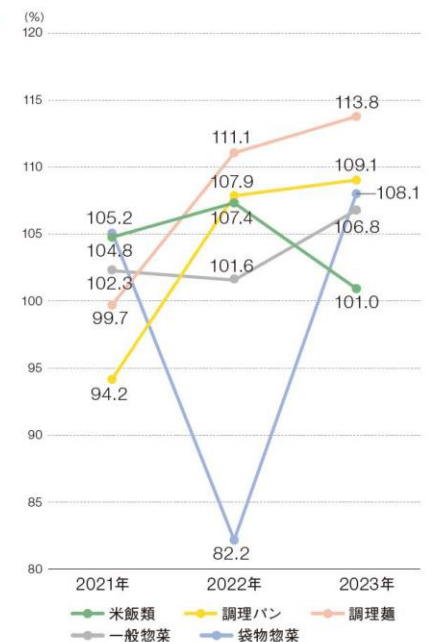
業態別の前年比は食料品スーパー105.7%が最も高く、次いでCVS105.6%、総合スーパー104.4%、惣菜専門店103.9%となっている。市場規模は依然CVSが最も大きく3兆4,631億円、次いで食料品スーパー3兆2,586億円、惣菜専門店2兆9,426億円と続く。

業態別構成比では2021年比で惣菜専門店・総合スーパー・CVSが0.1%～0.4%のシェアダウン（27.2%→26.8%）に対して、食料品スーパーのみが0.6%のシェアアップとなっている。

■ カテゴリー別市場 推移



■ カテゴリー別市場 前年比 推移



「2024年版 惣菜白書」

「惣菜白書」は、惣菜の市場動向・消費者動向・参考資料の構成からなる惣菜に関する業界唯一の統計資料として毎年発刊し、本年で20年目の節目を迎える。

2024年版では、惣菜専門店をはじめ百貨店やスーパー・CVSなど100社(68,683店)の小売店における販売動向の調査を実施した。また、消費者調査は、2024年2月9日～2月14日の期間、首都圏、近畿圏、中京圏、北海道の4エリアで実施。首都圏2,091サンプル、近畿圏2,080サンプル、中京圏1,042サンプル、北海道1,057サンプル、合計6,270サンプルでWeb調査を行った。



【掲載内容】

【価格（消費税別・送料無料）】

第1章 惣菜市場動向	◆日本惣菜協会の会員・賛助会員・協力会員	
第2章 消費者動向	惣菜管理士・学校関係者・協会教育事業受講者	本体価格 6,000 円 (税込 6,600 円)
第3章 惣菜企業10社の経営戦略	※日本惣菜協会の会員・賛助会員へは各社1冊無償配布	
第4章 消費者動向	◆一般企業・個人	本体価格 12,000 円 (税込 13,200 円)

＜一部内容のご紹介＞

日本社会は65歳以上人口の構成比が30%に迫り、女性の就労比率は67%、一人暮らし世帯の割合は38%に達する——。急速に人口は減少し、「胃袋」は小さく、買い物や家庭内調理時間はより短く、そして食へのニーズは健康や安全・安心、高品質・高付加価値、値ごろ、簡便、環境配慮など多様化する。一方で世界の人口は爆発的な増加を続け、食料を巡る争奪戦が活発化する。

こうした変化の波が押し寄せる中、2023年の惣菜市場は前年比4.9%増の10兆9827億円となり、3年連続で拡大した。コロナ禍が始まった20年はコンビニエンスストア（以下、コンビニ）やデパ地下の不振で一時的に落ち込んだものの、11兆円に迫る規模まで順調に回復した。消費ニーズへの対応が奏功したのに加え、値上げの浸透も市場拡大の要因だ。

「コロナ禍で巣ごもり消費が増え、ライフスタイルが大きく変化した。消費者も賢くなっている。中食も外食も進化しないと、以前のままでは選ばれない。大きな変化はビッグチャンスでもある」。日本惣菜協会の平井浩一郎会長は2024年の賀詞交歓会でこうあいさつした。

実際、惣菜は日持ちしづらい商品が多く、感染防止の観点から来店頻度の減少やまとめ買いが拡大した20年前半は、売上を大きく落とした。しかし、ウイズコロナ（新しい生活様式）の中で、21年が3.0%増、22年が同3.5%増へと転じてコロナ禍前の水準に戻った。

「惣菜白書2024」の消費者調査によると、1年前と比べた購入頻度は「変わらない」が66.3%で最多だが、「大変増えた」「やや増えた」の合計は22.8%と、「やや減った」「大変減った」の合計10.9%を上回る。「種類が豊富になっている」と「おいしいものが増えている」と思う層は6割を超え、生活者ニーズに対応している業界・企業努力がうかがえる。今後についても「かなり増える」「多少は増える」の合計回答は17.2%で、「減る」の9.7%を上回り、市場拡大が続く可能性が大きい。

「2024年版惣菜白書」巻頭言より抜粋